

原 著

母親の子育て不安と父親の家事・子育て参加との 関連性に関する研究

本保恭子*¹ 八重樫牧子*²

要 約

本研究では、保育園・幼稚園に通う子どもをもつ父母477組を対象に、母親の子育て不安程度、及び父親の家事・子育て参加の実態を明らかにし、その関連性を検討するためにアンケート調査を行った。結果の中で明らかになったことを以下にあげる。

1. 子どもの年齢が低いほど、父親の家事・子育て参加は高くなっていった。
2. 子どもの人数が少ないほど、父親の家事・子育て参加は高くなっていった。
3. 母親が常勤勤務である家庭は、父親の家事・子育て参加が高くなっていった。
4. 父親が家事・子育てによく参加している場合、母親の子育て不安は低いことが明らかになった。
5. 父親の家事・子育て参加状況を問う16項目について因子分析を行い、第1因子「精神的支え因子」、第2因子「子育て因子」、第3因子「家事因子」の3因子を抽出した。父親の家事・子育て参加の最も大きな要素は「妻を精神的に支えること」であることが明らかになった。

はじめに

子育てで重要なことは、親密で安定した継続的な親子関係を通して、子どもに安心感・安全感を与えることである。それが親子の愛情の絆であり、その成立のためには、親自身の人格的成熟と、夫婦関係の安定、生活の充実、周囲の期待と支えが重要である。

しかし、近年、都市化や核家族化、少子化の進行する中であって、母親になる以前の子育て経験が少ないこと、子育てに関する情報過多、子育て支援の不備などによって、子育てに伴う不安の増加が指摘されている。また女性の生き方が多様化し、働く母親が増加している現在では、家事と子育てと仕事という過重負担が問題になってきている。24時間休むことなく関わっていかなければならない子育てに対して疲労感を抱いている母親は少なくなく、不眠、イライラ、肩こり等の様々な症状の訴えが報告されている¹⁾。そのような状態で子どもに接することは、母親自身のみならず、子どもの健全な成長発達にとって好ましくないことはいうまでもない。子育ての中でも悩みや不安が蓄積され母親の子育て意欲が低下してしまうことは決して望ましいことではないだろう。母親が子育てに満足感と幸福感を感じな

がら子どもに接することが、子どもにとって最も大切なことであると思われる。

子育てにおける母親の負担が目立っている原因として、子育てがもたらす母親の問題とされてきたことにあると考えられる。母親には先天的に母性があり、子育て能力があるとされてきたのである。しかし、近年になって母親の子育てを巡る様々な問題が顕在化し、子育て困難、子育て不安、子育てノイローゼ、虐待などの問題が多々報告されるようになって、ようやく母性や母親の子育て能力が問題とされるようになってきた。子育ては、母親だけの問題ではなく、父親も含めた、夫婦の問題であると見なされるようになってきたのである。母親だけが子育てを担うべきだとする社会的通念が否定されるようになれば、当然のことながら結果として父親の子育て参加が期待され、要請されることとなる。こうして母性が問題とされ、また母親の子育て能力が分析対象として取り上げられるようになってきた。そしてその一方において、先に述べたように、既婚女性労働が増加してきたことから母親だけが子育てを担当するのは過重であるとして、父親の子育てへの参加が社会的にも期待され、要請されるようになってきた。こうして子育ては夫婦の問題として扱われるべきだ

*1 ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 児童学科 *2 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科
(連絡先) 本保恭子 〒700-8516 岡山市伊福町2-16-9 ノートルダム清心女子大学

という見方がようやく認識され始めたのである。

母親にとって最も身近な存在は父親であり、子育ての支援者としての父親の役割はきわめて大きいといえる。夫婦関係であれば、当然のことながら、母親も父親もそれぞれ相互の働きかけによって態度・行為あるいは感情を常に方向づけられ、また常に規定される。子育ての問題についても例外ではない。子育てに対する母親の態度・行為あるいは感情は父親の態度・行為あるいは感情によって方向づけられ、また規定されるだろう。したがって母親の子育てに対する態度・行為を分析するにしても、それは単に母子関係の枠に留まらず、父親の、母親に対する態度・行為・感情との関連においても分析検討されなければならないはずである。父親の子育て参加に関して、最近の父親は相当程度子育て・家事を行っているといわれている²⁾一方で、男女の役割分担が見直されている一般社会の風潮と異なり十分には行われていない³⁾というもや諸外国に比べて日本の父親は子育てにあまり積極的でない⁴⁾というものなど、父親の子育て参加の実態に関する報告は様々である。牧野の研究⁵⁾では、「夫も一緒に子育てをしてきている」と感じることでできる妻は子育て不安が少なく、逆に子育て不安の強い妻には、「夫は子育てに責任を持っていない」と感じている人がより多いといわれている。

そこで本研究では、乳幼児を持つ母親の子育て不安程度、及び、父親の子育てや家事参加の実態を明らかにするとともに、父親の子育て・家事参加が母親の子育て不安にどのように関連するのかを検討したい。そして、母親及び父親にとって子育てが今後どのようなあるべきか考えていきたい。

方 法

1. 調査時期および対象

平成14年6月下旬から7月中旬にかけて、K市の幼稚園1カ所、O市の幼稚園1カ所、保育園2ヶ所およびH1市の保育園3カ所の計7カ所において、子ども(0~6歳)を保育園あるいは幼稚園に通わせている父母998組にアンケート調査を実施した。アンケート用紙は、保育園・幼稚園の担当者から園児に持ち帰らせ、父母に記入してもらい、再び担任に回収してもらった。計998部のアンケート用紙を配布し、592部が回収され(回収率59.3%)、584部を有効回答として使用した。そのうち男児が279名(47.8%)、女児が296名(50.7%)、無回答が9名(1.5%)であった。なお、クロス集計に関しては、夫婦の回答がそろっていないものを除いた477組を研究対象とした。有効回答率は44.8%であった。

調査内容

A. 母親(妻)への調査

①基本的属性11項目、②子育て不安項目22項目、③育てにくさ項目7項目であった。②、③については、川井・庄司ほか⁶⁾による子ども総研式・子育て支援質問紙、29の不安項目の中から22項目を選定した。

B. 父親(夫)への調査

①基本的属性2項目、②子育て・家事参加実態3項目、具体的参加項目16項目、③休日の過ごし方であった。②については牧野⁷⁾、宮中⁸⁾による調査項目を参考に独自に作成した。③は蛭田・寺内ほか⁹⁾による生活と子育てに関する項目から選定した。

回答形式は選択形式である。

結 果

1. 対象

1.1. 子の年齢

「0歳」が2名(0.3%)、「1歳」が26名(4.5%)、「2歳」が26名(4.5%)、「3歳」が88名(15.1%)、「4歳」が171名(29.3%)、「5歳」が195名(33.4%)、「6歳」が67名(11.5%)、「無回答」が9名(1.5%)であり、「5歳」が最も多かった。

1.2. 子どもの人数

「1人」が158名(27.1%)、「2人」が302名(51.7%)、「3人」が109名(18.7%)、「4人以上」が14名(2.4%)、「無回答」が1名(0.2%)であり、「2人」が約半数を占めていた。

1.3. 母親の年齢

「25歳以下」が16名(2.7%)、「26歳~30歳」が124名(21.2%)、「31~35歳」が262名(44.9%)、「36歳~40歳」が151名(25.9%)、「41歳以上」が31名(5.3%)であった。

1.4. 父親の年齢

「25歳以下」が7名(1.3%)、「26歳~30歳」が82名(15.6%)、「31歳~35歳」が166名(31.5%)、「36歳~40歳」が165名(31.3%)、「41歳~45歳」が73名(13.9%)、「46歳~50歳」が18名(3.4%)、「51歳以上」が5名(0.9%)、「無回答」が11名(2.1%)であった。

1.5. 母親の就労形態

「専業主婦」が150名(25.7%)、「常勤勤務」が168名(28.2%)、「在宅勤務」が44名(7.5%)、「非常勤勤務」が176名(30.1%)、「休職中」が17名(2.9%)、「その他」が26名(4.5%)、「無回答」が3名(0.5%)であった。

1.6. 父親の休日の過ごし方(複数回答)

「家族と外出」と回答した父親は420名(79.7%)、

調査票

<はじめに次の質問にお答えください>

1. ご回答いただくお子さんは？ () 番目 () 歳 (1. 男の子 2. 女の子)
2. お子さんは全部で何人ですか？ () 人
3. あなたの年齢は？ () 歳
4. あなたは現在、就労していますか？ それはどのような形態ですか？
 1. 専業主婦（就労をしていない）
 2. 常勤勤務（8時間以上）
 3. 在宅勤務（自営を含む）
 4. 非常勤勤務（パート・アルバイト）
 5. 休職中
 6. その他（)

<あなたの子育てに関する質問にお答えください>

1. 夫は子育てに参加してくれますか？
 1. よくある
 2. 時々ある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
 5. わからない
2. 夫は家事に参加してくれますか？
 1. よくある
 2. 時々ある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
 5. わからない
3. 夫と子育てについて話し合いますか？
 1. よくある
 2. 時々ある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
 5. わからない
4. 人とのつきあいはありますか？
 1. よくある
 2. 時々ある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
 5. わからない
5. 子どもが3歳になるまでは、母親が子育てに専念するべきだと思いますか？
 1. 非常に同感する
 2. だいたい同感する
 3. あまり同感しない
 4. 全く同感しない
 5. わからない
6. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか？
 1. 非常に同感する
 2. だいたい同感する
 3. あまり同感しない
 4. 全く同感しない
 5. わからない
7. 子育ては夫婦協働で行うべきだという考え方についてどう思いますか？
 1. 非常に同感する
 2. だいたい同感する
 3. あまり同感しない
 4. 全く同感しない
 5. わからない

<この頃、次のようにお感じになることがありますか？ 【育児不安項目一図1】>

- | | | | | |
|----------------------------|---------|---------|-----------|---------|
| 1. 育児のことに自信がもてない | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 2. 母親として不適格と感じている | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 3. 子どもをうまく育てている | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 4. どのようにしつけたらよいかわからないことがある | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 5. 育児についていろいろ心配なことがある | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 6. 子どものことでどうしたらよいかわからない | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 7. 私は子育てに困難を感じている | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 8. 子どものことは理解できている | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 9. 子どものことがわずらわしくてイライラする | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 10. よその子どもと比べて落ち込んだり自信をなくす | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 11. 子どもを育てることは負担である | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 12. とめどなく子どもを叱ってしまう | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 13. 子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 14. 子どもを虐待しているのではないかと思う | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 15. 子どもが可愛くないと思うことがある | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 16. 心配性であれこれ気に病む | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 17. 何事にも敏感に感じすぎてしまう | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 18. 不安や恐怖感におそわれる | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 19. 楽天的でよくよ考えない | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |
| 20. 悲観的である | 1. よく思う | 2. 時々思う | 3. ほとんどない | 4. 全くない |

21. 気が滅入る 1. よく思う 2. 時々思う 3. ほとんどない 4. 全くない
 22. 何とも言えず淋しい気持ちにおそわれる 1. よく思う 2. 時々思う 3. ほとんどない 4. 全くない

<赤ちゃんのとき(生まれてから半年くらいまで)お子さんはどのような赤ちゃんでしたか> 【育てにくさ項目一図2】

- | | | | | |
|---------------------------|----------|----------|-------------|-----------|
| 1. よく泣いてなだめにくかった | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |
| 2. あまり眠らなかった | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |
| 3. 抱っこや外に連れ出すなど寝るまで手がかかった | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |
| 4. 一晩に何回も起こされた | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |
| 5. わけもわからず泣いた | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |
| 6. 1日の生活リズムが一定しなかった | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |
| 7. おとなしく手がかからなかった | 1. よくあった | 2. 時々あった | 3. ほとんどなかった | 4. 全くなかった |

<ここからはお父さんにおたずねします> 1. あなたは子育てに参加していますか?

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

2. あなたは家事に参加していますか?

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

3. 育児、家事への参加の程度についておたずねします 【父親の家事・育児参加項目一図3】

- | | | | | |
|-----------------|---------|-----------|----------|------------|
| 1) 抱っこ | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 2) 遊ぶ | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 3) お風呂 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 4) おむつ交換 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 5) 衣類の着替え | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 6) 外出に付き添い | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 7) 食事介助 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 8) 買い物 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 9) 掃除 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 10) 料理 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 11) 洗濯 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 12) 大変さを理解する | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 13) 子育てについて話し合う | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 14) 子育ての心配を聞く | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 15) 子育ての相談・助言 | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |
| 16) 励ます | 1. 毎日した | 2. 週に2~3回 | 3. 月に2~3 | 4. 全くしていない |

3. 妻と子育てについて話をしますか

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. 全くない

4. あなたの就労形態は?

1. 会社員 2. 自営業 3. その他 ()

6. 休日の過ごし方についておたずねします

1. 家族と一緒に外出する 2. 外出して自分の趣味をする
 3. 家の中で一人でのんびりする 4. その他 ()

7. あなたの年齢は? () 歳

ご協力ありがとうございました。

「外出して自分の趣味」と回答した父親は73名(13.9%),「家で一人でのんびり」と回答した父親は54名(10.2%),「その他」と回答した父親は41名(7.8%),「無回答」の父親は15名(2.8%)であり,約8割の父親が休日を家族と共に過ごしていた。

2. 子育て不安,育てにくさ,父親の家事・子育て参加の得点化

2.1. 子育て不安得点(図1)

子育て不安項目,22項目のうちネガティブな意識の19項目については,「よく思う」を3点,「時々思う」を2点,「ほとんどない」を1点,「全くない」を0点とし,またポジティブな意識の3項目については,「よく思う」を0点,「時々思う」を1点,「ほとんどない」を2点,「全くない」を3点として得点化した。子育て不安得点合計の最大値は56点,最小値は2点,平均値は27.95点,標準偏差は9.60点で,正規分布をしていた。子育て不安得点の最も高かった項目は「5.子育てについていろいろ心配なことがある」(1.92点),次いで「4.どのようにしつければよい

かわからないことがある」(1.89点)であった。子育て不安得点の最も低かった項目は「15.子どもが可愛くないと思うことがある」(0.76点),次いで「14.子どもを虐待しているのではないかと思う」(0.77点)であった。標準偏差を基準に,子育て不安得点合計が37.55点以上を子育て不安の高い群,18.35点以上~37.55点未満を子育て不安の中間群,18.35点未満を子育て不安の低い群とした。子育て不安の高い群は75名(15.7%),中間群は312名(65.4%),低い群は90名(18.9%)であった。

2.2. 育てにくさ得点(図2)

子どもがどのような赤ちゃんであったかについての質問7項目のうち,ネガティブな意識の6項目については,「よくあった」を3点,「時々あった」を2点,「ほとんどなかった」を1点,「全くなかった」を0点とし,ポジティブな意識の1項目については,「よくあった」を0点,「時々あった」を1点,「ほとんどなかった」を2点,「全くなかった」を3点として得点化した。育てにくさ得点合計の最大値は21点,最小値は0点,平均値は9.86点,標準偏差は

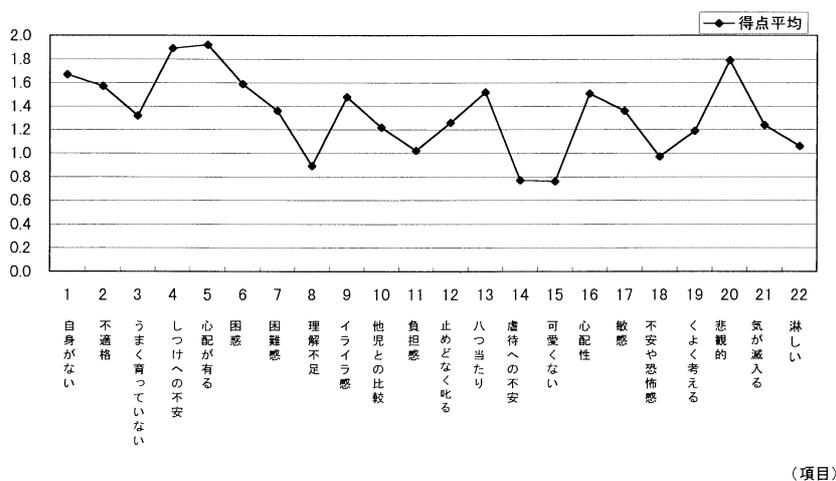


図1 育児不安得点

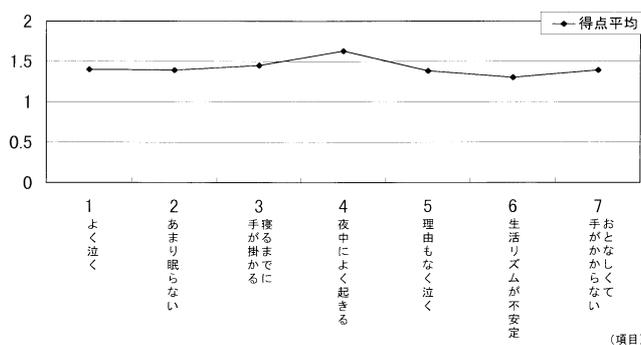


図2 育てにくさ得点

5.03点で、正規分布をしていた。育てにくさ得点の最も高かった項目は「4. 一晩に何回も起こされた」(1.63点)、次いで「3. 抱っこや外に連れ出すなど寝るまでに手がかかった」(1.45点)であった。育てにくさ得点の最も低かった項目は「6. 1日の生活リズムが一定しなかった」(1.30点)、次いで「5. わけもわからず泣いた」(1.38点)であった。標準偏差を基準に、育てにくさ得点合計が14.89点以上を育てにくさの高い群、4.83点~14.89点を育てにくさの中間群、4.83点以下を育てにくさの低い群とした。育てにくさの高い群は84名(17.6%)、中間群は323名(67.7%)、低い群は70名(14.7%)であった。

2.3. 父親の家事・子育て参加得点(図3)

父親に対する質問である家事・子育て参加程度をたずねる16項目について「毎日した」を3点、「週に2~3回」を2点、「月に2~3回」を1点、「全くしてない」を0点として得点化した。家事・子育て参加得点合計の最大値は48点、最小値は0点、平均値は25.89点、標準偏差は9.33点で、正規分布をしていた。家事・子育て参加得点の最も高かった項目は「1. 抱っこ」

(1.92点)、次いで「3. お風呂」(1.85点)であった。家事・子育て参加得点の最も低かった項目は「11. 洗濯」(0.15点)、次いで「10. 料理」(0.46点)であった。標準偏差を基準に、家事・子育て参加得点合計が35.22点以上を家事・子育て参加の高い群、16.56点~35.22点を家事・子育て参加の中間群、16.86点以下を家事・子育て参加の低い群とした。家事・子育て参加の高い群は78名(16.4%)、中間群は321名(67.3%)、低い群は78名(16.4%)であった。

3. 父親の家事・子育て参加との関連性

3.1. 属性との関連性

父親の家事・子育て参加程度と属性のクロス条件表を作成し、カイ二乗検定を行うことにより、その関連性を検討した。

3.1.1. 父親の家事・子育て参加程度と子どもの年齢(図4)

父親の家事・子育て参加が高い群の父親の場合は、「0歳」が1.3%、「1歳」が9.0%、「4歳」が28.2%、「5歳」が30.8%、「6歳」が7.7%であった。父親の

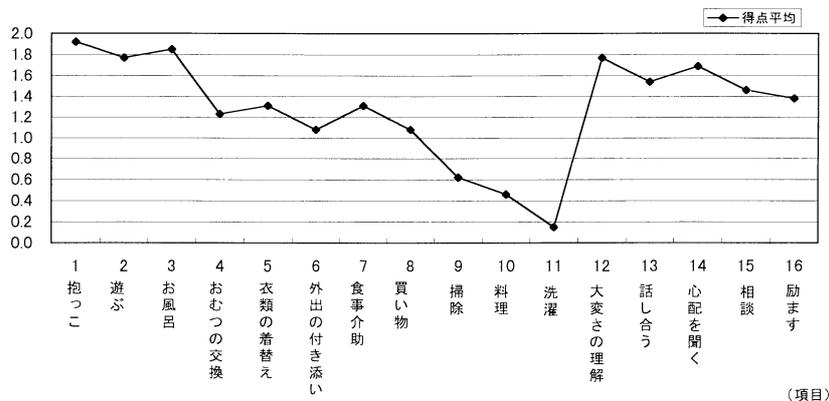


図3 父親の家事・育児参加得点

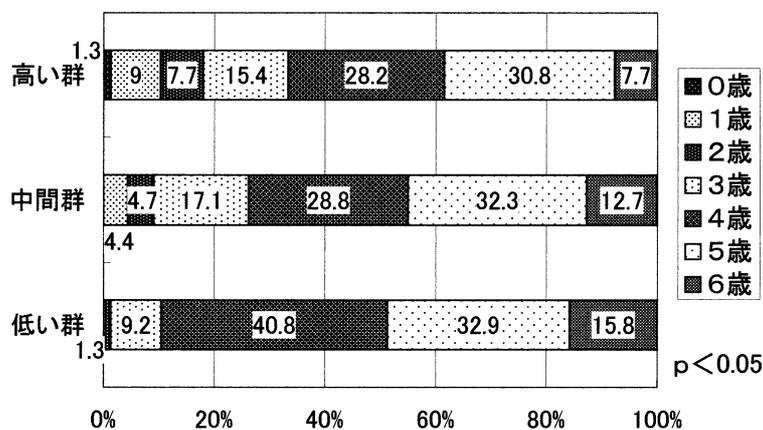


図4 父親の家事・育児参加 × 子どもの年齢

家事・子育て参加が中間群の父親の場合は、「0歳」が0%、「1歳」が4.4%、「4歳」が28.8%、「5歳」が32.3%、「6歳」が12.7%であった。父親の家事・子育て参加程度が低い群の父親の場合は、「0歳」が0%、「1歳」が0%、「4歳」が40.8%、「5歳」が32.9%、「6歳」が15.8%であった。子どもの年齢が低い父親ほど家事・子育てに協力的で、子どもの年齢が高い父親ほど家事・子育てに非協力的であり、有意差が認められた ($p<0.05$)。

3.1.2. 父親の家事・子育て参加程度と子どもの人数 (図5)

父親の家事・子育て参加程度が高い群の父親の場合は、「1人」が37.2%、「2人」が41.0%、「3人」が21.8%、「4人」が0%であった。家事・子育て参加程度が中間群の父親の場合は、「1人」が25.6%、「2人」が54.1%、「3人」が17.8%、「4人」が2.5%であった。父親の家事・子育て参加程度が低い群の父親の場合は、「1人」が15.4%、「2人」が56.4%、「3人」が21.8%、「4人」が6.4%であった。子どもの人数が少ない父親ほど家事・子育てに協力的で、子

どもの人数が多い父親ほど家事・子育てに非協力的であり、有意差が認められた ($p<0.01$)。

3.1.3. 父親の家事・子育て参加程度と母親の就労形態 (図6)

父親の家事・子育て参加程度が高い群の父親の場合は、母親の就労形態は「常勤勤務」が42.3%で最も多く、父親の家事・子育て参加程度が低い群の父親の場合は、母親の就労形態は「専業主婦」が38.5%で最も多くなっていた。母親が常勤勤務で働いている家庭の父親は専業主婦の家庭の父親に比べて家事・子育てに協力的であり、有意差が認められた ($p<0.01$)。

3.1.4. 父親の家事・子育て参加程度と休日の過ごし方 (図7-1.7-2)

休日の過ごし方のうち「家族と外出」について「はい」と回答した父親は、家事・子育て参加程度が高い群の場合が91.0%と圧倒的に多く、家事・子育て参加程度が中間群の場合は84.3%、家事・子育て参加が低い群の場合は62.8%であった。家事・子育てに協力的な父親ほど休日も家族と共に過ごしており、有意差が認められた ($p<0.001$)。「家の中で一

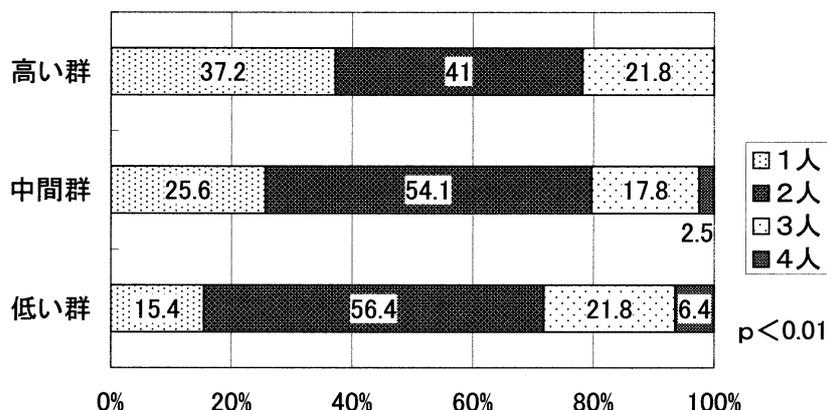


図5 父親の家事・育児参加×子供の人数

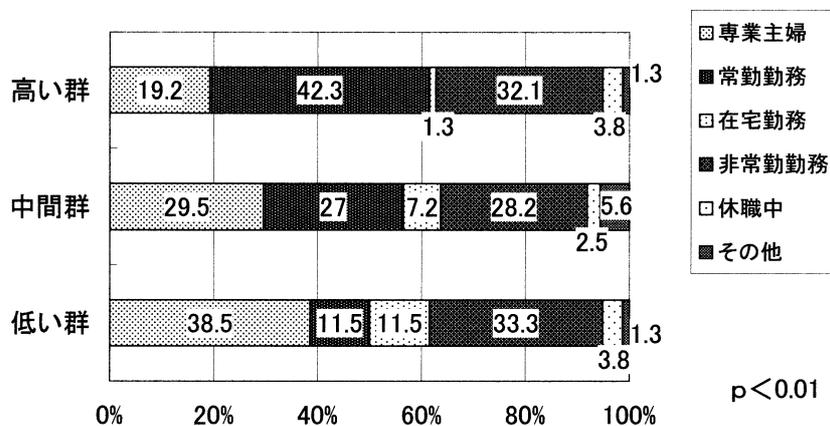


図6 父親の家事・育児参加×就労形態

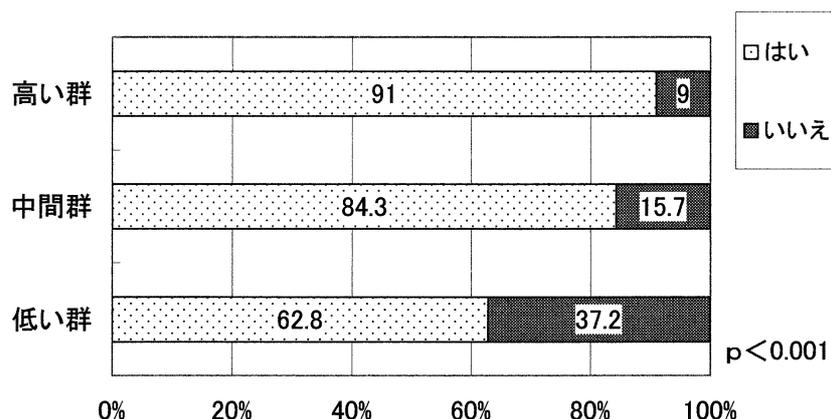


図7-1 父親の家事・育児参加×家族と外出

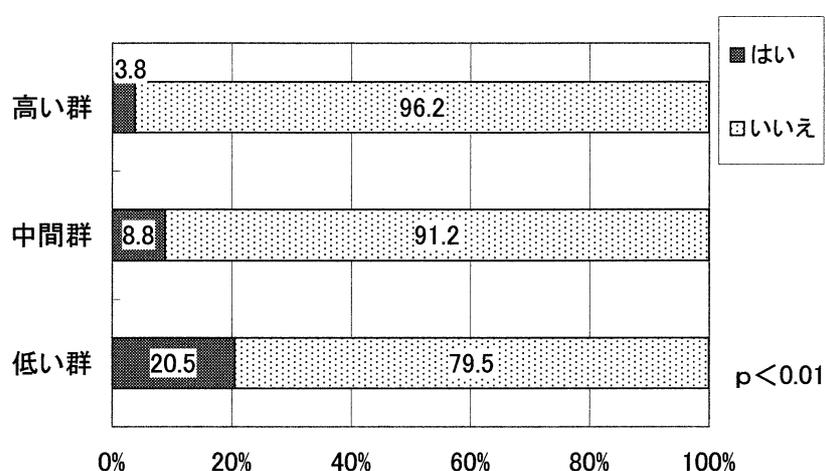


図7-2 父親の家事・育児参加×いえで一人でのんびり

人でのんびりする」について「はい」と回答した父親は、家事・子育て参加が高い群の場合は3.8%、中間群の場合は8.8%、低い群の場合は20.5%であった。家事・子育てに非協力的な父親ほど休日も家で一人でのんびりと過ごす傾向があり、有意差が認められた ($p < 0.01$)。「外出して自分の趣味」、「その他」については有意差が認められなかった。

3.2. 子育て不安程度との関連性(図8)

父親の家事・子育て参加程度と子育て不安程度に関連性についてクロス集計を行った。父親の家事・子育て参加が高い群で、子育て不安が高い群の母親は7.7%、中間群の母親は64.1%、低い群の母親は28.2%であった。父親の家事・子育て参加の中間群で、子育て不安が高い群の母親は14.3%、中間群の母親は67.3%、低い群の母親は18.4%であった。父親の家事・子育て参加が低い群で、子育て不安が高い群の母親は29.5%、中間群の母親は59.0%、低い群の母親は11.5%であった。父親が家事・子育てに協力的な家庭の母親ほど子育て不安が低く、父親が家

事・子育てに非協力的な家庭の母親ほど子育て不安が高くなっており、有意差が認められた ($p < 0.01$)。

3.3. 育てにくさ程度との関連性(図9)

父親の家事・子育て参加程度と育てにくさ程度に関連性についてクロス集計を行った。父親の家事・子育て参加が高い群で、育てにくさが高い群の母親は14.1%、中間群の母親は64.1%、低い群の母親は21.8%であった。父親の家事・子育て参加が中間群で、育てにくさが高い群の母親は16.2%、中間群の母親は69.5%、低い群の母親は14.3%であった。父親の家事・子育て参加が低い群で、育てにくさが高い群の母親は26.9%、中間群の母親は64.1%、低い群の母親は9.0%であった。父親が家事・子育てに協力的な家庭の母親ほど育てにくさは感じておらず、父親が家事・子育てに非協力的な家庭の母親ほど育てにくさを感じており、有意差が認められた ($p < 0.05$)。

4. 因子分析からみた父親の家事・子育て参加(表1)

父親の家事・子育て参加16項目について因子分析を

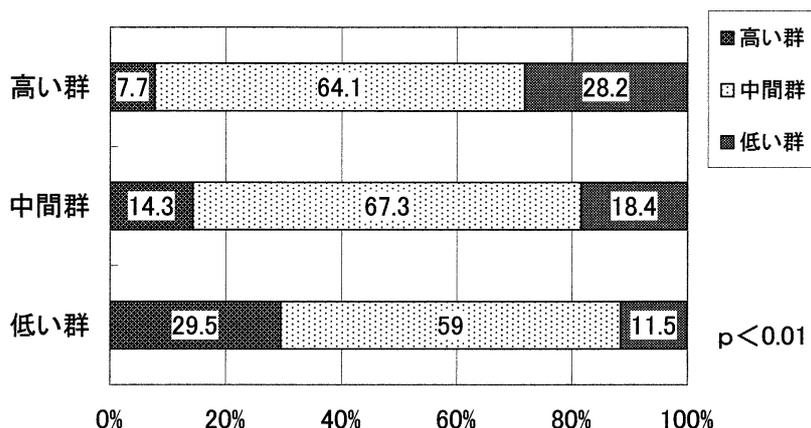


図8 父親の家事・育児参加 × 母親の育児不安

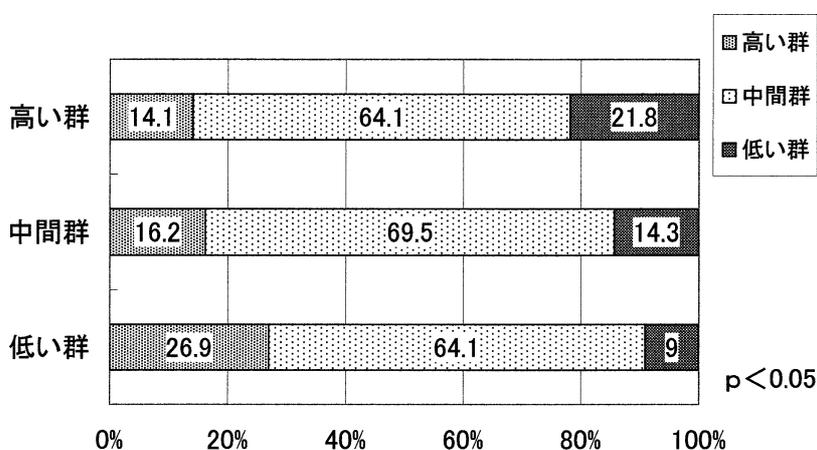


図9 父親の家事・育児参加 × 母親の育てにくさ

行い、3因子を抽出した。第1因子として抽出された項目は、「14.子育ての心配を聞く」、「15.子育ての相談・助言」、「13.子育てについて話し合う」、「16.励ます」、「12.大変さを理解する」の5項目から成っており、この5項目は、妻に対する精神的な支援に関する具体的な項目であるため「精神的支え因子」と名づけた。第1因子として「精神的支え」が抽出されたことから、父親の家事・子育て参加の最も大きな要素は妻を精神的に支えることであることが明らかとなったが、各項目ごとに「週2～3回以上」の参加率をみると、参加率が最も高かった項目は「12.大変さを理解する」(66.8%)、次いで「13.子育てについて話し合う」(54.8%)であった。参加程度が最も低かった項目は、「16.励ます」(45.5%)、次いで「15.子育ての相談・助言」(48.2%)であった。

第2因子として抽出された項目は「1.抱っこ」、「2.遊ぶ」、「5.衣類の着替え」、「4.おむつの交換」、「7.食事介助」、「3.お風呂」、「6.外出に付き添い」の7項目から成っており、この

7項目は、子育てに関する具体的項目であるため「子育て因子」と名づけた。各項目の中で参加率が最も高かった項目は、「1.抱っこ」(88.0%)次いで「2.遊ぶ」(80.5%)であった。参加程度が最も低かった項目は、「7.食事介助」(56.2%)、次いで「6.外出に付き添い」(57.5%)であった。

第3因子として抽出された項目は、「9.掃除」、「10.料理」、「11.洗濯」、「8.買い物」の4項目で、この4項目は、家事に関する具体的項目であるため「家事因子」と名づけた。この中で参加率が最も高かった項目は「8.買い物」(45.2%)であったが、他の「9.掃除」、「11.洗濯」、「10.料理」の3項目は、それぞれ20.3%、15.4%、16.9%と低い参加率であった。

考 察

1. 父親の家事・子育て参加と属性との関連性
 - 1.1. 子どもの年齢、子どもの人数と父親の家事・子育て参加
 - 父親の家事・子育て参加と「子どもの年齢」、「子

表1 因子分析からみた父親の家事・育児参加

質問項目	因子負荷量			参加率 (%)
	I	II	III	
I 精神的支え				
14. 子育ての心配を聞く	0.864	0.213	0.169	52.6
15. 子育ての相談・助言	0.864	0.197	0.153	48.2
13. 子育てについて話し合う	0.826	0.19	0.193	54.8
16. 励ます	0.758	0.233	0.135	45.5
12. 大変さを理解する	0.498	0.332	0.25	66.8
II 子育て				
1. 抱っこ	0.272	0.737	0.115	88
2. 遊ぶ	0.317	0.7	0.16	80.5
5. 衣類の着替え	0.181	0.697	0.38	64.3
4. おむつの交換	0.109	0.664	0.346	62.6
7. 食事介助	0.229	0.596	0.429	56.2
3. お風呂	0.192	0.543	0.28	74.6
6. 外出に付き添い	0.26	0.498	0.47	57.5
III 家事				
9. 掃除	0.133	0.222	0.627	20.3
10. 料理	0.119	0.11	0.626	16.9
11. 洗濯	0.11	0.2	0.584	15.4
8. 買い物	0.204	0.289	0.568	45.2
因子負荷量の2乗和	6.74	1.646	0.798	
寄与率 (%)	42.125	10.285	4.989	
累積寄与率 (%)	42.125	52.41	57.399	

どもの人数」との間には有意な関連性が認められた。子どもの年齢との関連をみると、子どもの年齢が低いほど、父親の家事・子育て参加は高いことが明らかになった。家事・子育て参加が高い群の父親の場合は、0～3歳が約3割であるのに対し、低い群の父親の場合は、0～3歳が約1割にとどまり、約9割が4歳以上であった。また、子どもの人数との関連をみると、子どもの人数が少ないほど、父親の家事・子育て参加が高いことが明らかになった。

子どもの年齢が低いと当然子育てに費やす時間も多くなるため、母親だけでは家事・子育ての負担が大きすぎることから、父親は積極的に家事・子育てに参加していると考えられる。子どもの数については、人数が多い程父親の家事・子育て参加が積極的になるのではないかとこの仮説を持っていたが、逆の結果となり支持されなかった。父親の家事・子育て参加が高い群では、子どもの数は「1人」が約4割を占めており、他の群と比較して最も高くなっていった。子どもの人数が1人の場合、初めての子どもで父親の関心が高く家事・子育てに積極的に参加しているのではないかと考えられる。秋山・飯倉ほかによる研究¹⁰⁾においても、子育てへの関わり方は子どもの数が増えるにつれて少なくなっていることを指摘している。子育て技術には習熟している母親であっても複数の子どもの子育てに追われると、母親の負担は増大していくことは容易に想像できる。しかし、その母親の状況に反し、今回の調査結果では、子どもの人数が多くなると父親の家事・子育て参加は低くなっていた。このことから、母親の負担に対する父親の理解はまだ浅いと思われる。従って、父親は、子どもが複数になると母親の負担は増大していくことへの理解をより深め、積極的に子育てに関わっていく必要があるといえる。

1.2. 母親の就労形態との関連性

父親の家事・子育て参加と母親の就労形態との間には有意な関連性が認められた。父親の家事・子育て参加程度によって母親が「専業主婦」である割合をみると、高い群では約2割であるのに対し、低い群では約4割と高くなっていった。一方、母親が「常勤勤務」である割合をみると、高い群では約4割と高いのに対し、低い群では約1割にとどまっていた。母親が「専業主婦」である場合、父親の家事・子育て参加は低く、母親が「常勤勤務」である場合、父親の家事・子育て参加は高いことが明らかになった。

働いている母親が一人で家事・子育てを全て担うのは困難であると考えられる。従って、母親が常勤勤務である家庭の父親は、母親の負担を軽減すべく、ともに家事・子育てに参加しようという意識が高いのではないかとこのことが示唆されていた。ま

た、女性が働くことへの理解があり、性別役割分業の考え方にとらわれていないために家事・子育て参加にも積極的なのではないかと考えられる。父親の家事・子育て参加と母親の就労形態との関連性についての研究は少ない。今回の結果から、母親が働いている方が父親の家事・子育て参加が高いことを実証することができた。

2. 父親の家事・子育て参加と母親の子育て不安

父親の家事・子育て参加と母親の子育て不安との間には有意な関連性が認められた。父親の家事・子育て参加が高いほど母親の子育て不安は低いことが明らかになった。

父親の協力的な態度は、母親の満足感を高め、母親は安定した心理状態で子育てをすることができると考えられる。岡本・中村らによる研究¹¹⁾においても父親の家事・子育て参加の程度は母親の満足感に影響を与え、母親の満足感が母親の子育て不安に影響を与えていることを指摘している。父親の家事・子育て参加が得られない場合、母親は一人で家事・子育てを行わなければならないという感情を抱き、父親や母親自身の生活の現状を肯定的に受け止めることが困難となり、不安を抱きやすいといえる。母親が抱く不安を少しずつでも解消していくためには、今回の調査結果からも父親の協力が必要不可欠であるといえる。従って、父親がより家事・子育てに参加しやすい環境の整備の必要性が示唆された。

2. 父親の家事・子育て参加と母親からみた子どもの育てにくさ・子育て意識

父親の家事・子育て参加と母親からみた子どもの育てにくさとの間には有意な関連性が認められた。父親の家事・子育て参加が高いほど、母親にとって子どもの育てにくさは低いことが明らかになった。父親の家事・子育て参加が高い群では、育てにくさが高い群の母親が約1割強であるのに対し、低い群では、育てにくさが高い群の母親が約3割であった。

父親から家事・子育て参加を得られている母親は、子育て不安の場合と同様、母親は一人で家事・子育てを行っているという感情を抱くことが少なく、育てにくさ感も軽減するといえる。また一人で家事・子育てを行っているストレスが蓄積し、より育てにくさ感を強めることになるのではないかと考えられる。父親には家事・子育てへの実際の行動を伴った参加が望まれるが、帰宅時間が遅い等の理由に、たとえそれが困難であっても、「態度として協力的な姿勢」や「妻の悩みや不満を分かち合う精神的な支え」が母親の子育て不安解消の鍵となり、母親の心の内を楽にする力があるといえよう。

ま と め

本稿において、母親の意識には父親の関わりが関連しており、父親と母親の協力による子育ての重要性が改めて確認された。そして、子育て不安を少しでも減らすために、父親の「妻への精神的支え」を中心とした家事・子育て参加をより推進していく必要性が示唆された。父親が積極的に家事・子育てに参加できるようにするためには、父親自身への働きかけと、父親が家事・子育てに参加することを支え

る社会的な基盤整備が今後の課題であるといえる。

本稿を終えるにあたり、快く調査にご協力くださいました保育園・幼稚園の保護者の皆様、諸先生方に心より御礼申し上げます。また、調査先のご紹介および調査依頼の労をお取りくださいましたノートルダム清心女子大学児童学科奥山清子教授に深謝いたします。統計処理を行うにあたり、ご協力をいただきましたノートルダム清心女子大学児童学科の谷口亜沙美さんと川崎医療福祉大学医療福祉学科の廣中絵美子さんに感謝いたします。

文 献

- 1) 服部律子, 中嶋律子: 産褥初期から産後13ヶ月の母親の疲労に関する研究(第一報). 小児保健研究, 59(6), 663-668, 2000.
- 2) 川井尚: 幼少期の子育てにおける父親の役割. 子ども家庭福祉情報, 12, 25-30, 1996.
- 3) 松原康雄: 高齢化社会における家族と子育て. 母子保健情報, 29, 4-8, 1994.
- 4) 厚生省: 厚生白書, 70-71, 1998.
- 5) 牧野カツコ: 乳幼児を持つ母親の生活と<子育て不安>. 家庭教育研究所紀要, 3, 53-55, 1982.
- 6) 川井尚, 庄司純一, 千賀悠子, 加藤博仁, 中村敬, 安藤朗子, 谷口和歌子, 佐藤紀子, 常次鉄也: 子育て不安に関する臨床的研究 VI—子ども総研式・育児支援質問紙(試案)の臨床的有用性に関する研究—. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 36, 117-138, 2000.
- 7) 牧野カツコ, 中西雪夫: 乳幼児をもつ母親の子育て不安—父親の生活および意識との関連—. 家庭教育研究所紀要, 6, 11-24, 1985.
- 8) 宮中文子: 「母親への発達」に影響する父親および家族の要因—出産後10ヶ月の調査による分析—. 母性衛生, 42(4), 677-685, 2001.
- 9) 蛭田由美, 寺内文敏, 平山宗宏: 父親の子育て支援に関する研究. 母性衛生, 42(2), 386-393, 2001.
- 10) 秋山輔美, 飯倉美子, 江口桂子: 父親の子育てに関する学習とその効果. 助産婦雑誌, 61(11), 82-87, 1997.
- 11) 岡本絹子, 中村裕美子, 山口三重子, 奥山則子, 標美奈子, 渡部月子: 乳幼児を持つ母親の疲労感と父親の子育て参加に関する研究. 小児保健研究, 61(5), 692-700, 2002.

(平成15年5月20日受理)

A Study on the Relation between Mother's Anxiety about Bringing up Children and the Participation of the Father in Household Matters and Child Rearing

Kyoko MOTOYASU and Makiko YAEGASHI

(Accepted May 20, 2003)

Key words : CHILD REARING, MOTHER'S ANXIETIES ABOUT CHILD REARING,
FATHER'S PARTICIPATION

Abstract

This study is concerned with the role the father plays at home. How much time does he devote to child rearing, does he participate in everyday household activities? These questions are analyzed with their affect on the matters anxiety toward both child rearing and household activities. 477 married couples whose children attended a nursery school or a kindergarten were surveyed. The survey method used was a questionnaire investigation. The findings were as follows:

1. The younger the child the more the father participated in household matters and child rearing.
2. If the married couple had few children, father participated more in household matters and child rearing.
3. In families with the full-time working mothers, fathers participated more in household matters and child rearing.
4. Mothers had less anxiety when their husbands participated in household matters and child rearing.
5. As a result of this factor analysis, the father's participation in household matters and child rearing showed that the most important factor leading to a reduction in the mother's anxiety was their husband's "mental" support.

Correspondence to : Kyoko MOTOYASU Department of Child Welfare, Faculty of Human Life Sciences,
Notre Dame Seishin University
Okayama, 700-8516, Japan
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.13, No.1, 2003 1-13)